

三重県の強酸性茶園における土壌 pH を反映した保肥力の適正評価

利用対象：指導者

県内茶園では、土壌改善目標（pH4.5-5.0）に満たない強酸性化が進んだ土壌が多く、それに伴う保肥力の低下が考えられます。通常の土壌診断で測定されるCEC（陽イオン交換容量）は、pH7.0条件で測定されるため、土壌pHを反映した保肥力とはなっていません。そこで、県内の強酸性茶園における土壌pHを反映した保肥力を明らかにし、強酸性茶園での適正pHへの酸度矯正による保肥力向上効果を検証しました。

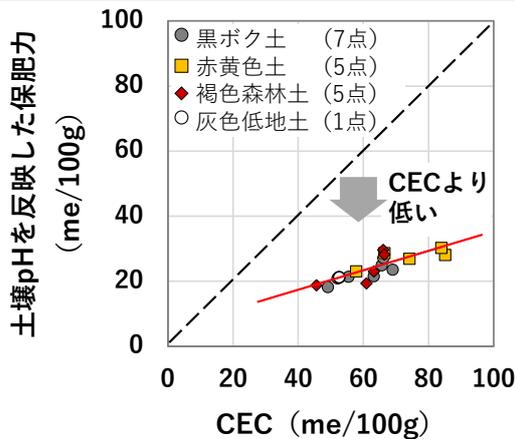


図1 土壌pHを反映した保肥力とCECの関係
※調査土壌pH：3.4~4.7
図中破線は1：1を示す

- ・県内茶園土壌のpHを反映した保肥力はCECと比べて非常に低く、4割程度でした。
- ・土壌の種類（黒ボク土等）による差は認められませんでした。

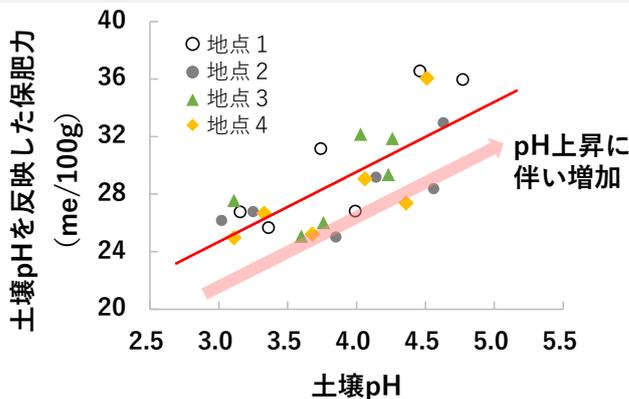


図2 酸度矯正による土壌pHとpHを反映した保肥力との関係
※試験茶園土壌：赤黄色土
pH4.5を目標に苦土石灰を施用し、4地点から経時的に土壌を採取

- ・苦土石灰施用により酸度矯正を行うと、保肥力が向上しました。

- ・保肥力が向上すると土壌からの養分の溶脱を抑え、肥効の向上が期待できます。
- ・酸度矯正により保肥力は向上しますが、茶は酸性土壌を好む植物でありpHの上げすぎは悪影響がある可能性があるため、土壌診断に基づき適切な土壌管理に努めてください。

お問い合わせ先	基盤技術研究室 フード・循環研究課 藤井琢馬 電話 0598-42-6351 中央農業改良普及センター 森井 均 電話 0598-42-6707
参考になる資料	https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm （三重農研HP）